

まとめ

今回の「単身赴任に関する実態調査」から、帰省時および帰省先から赴任先の職場に戻る際の、通勤災害に関連する問題をまとめてみると、以下ようになる。

1. 「帰省先から赴任地に戻る場合」に事故に遭遇することが多い。
2. 往路・復路とも「会社から家族のもと」に移動する時と、「家族のもとから会社」に移動する時に事故の発生が多い。特に短期休暇の場合に多い。(いずれも赴任地の自宅を経由しないで直行)
3. 利用する交通機関として「鉄道」に次いで「自家用車・社用車」の利用が多い。
4. 遭遇した事故のうち「自家用車運転中の事故」が約3分の1を占める。
5. 調査実態からは「自宅に戻ってから帰省(または出勤)する」人が多い。特に長期休暇の場合に顕著である。

以上のことから判断して、事故発生を回避するための対策としては、

1. 時間的・精神的余裕を持って、赴任先の職場と帰省先の自宅を往復する。
2. 帰省の際も、帰省先から職場に出勤する際も、一度赴任先の自宅に立ち寄って休息または睡眠を取ってから移動する。
3. 「自家用車・社用車」の利用を極力回避する。特に社用車の利用は避ける。
4. 「単身赴任者の帰省に関する規定」に往復の移動に関する事項を明文化する。
5. 「マイカー運行規定」や「社用車運行規定」の中で単身赴任者の移動に関する事項を明文化する。
6. 単身赴任者に対する教育・指導を徹底する。

したがって、単身赴任者が帰省のために、赴任地の会社と家族の住む帰省先との間を往復する際の、赴任地における自宅(寮等)は安全対策上「通勤経路」と解釈すべきである。

以上